

日本環境教育学会「原発事故後の福島を考える」プロジェクト

第5次調査報告書

1) 日 時：2018年6月22日（金）～24日（日）

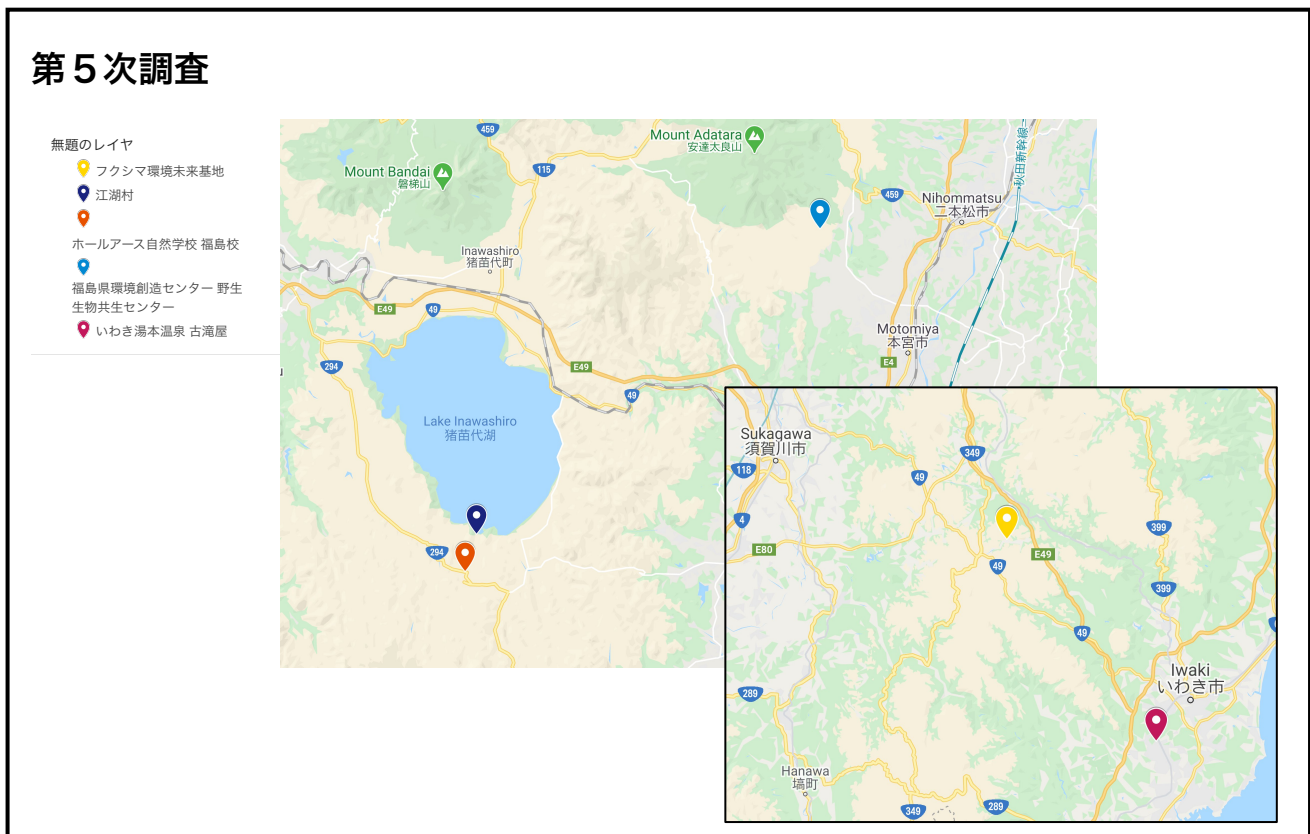
2) 場 所：いわき市、郡山市、大玉村

3) 参加者：14名

4) 概 要

本調査は、毎年2回実施している福島訪問調査の第5次調査であり、3日間の日程で行った。1日目は、フクシマ環境未来基地の塚本さんに県内における自然学校や自然体験学習についてお話を伺った。また、古滝屋（いわき市）にて、県内の自然学校等で結成した「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」について進士さんよりお話を伺った。2日目は、江湖村（エコ村）における循環型生活の取組についてお話を伺った。また、ホールアース自然学校福島校にて、同校代表の和田さんとラウンドテーブル「福島県における自然学校の現状と課題」を開催した。3日目は、福島県野生生物共生センターにて「野生動物の放射性モニタリングと環境教育」に関してレクチャーを受けた。

5) 訪問地 MAP



6月22日（金）1日目

13:30～15:10 フクシマ環境未来基地(福島県いわき市三和町下三坂永久保)



外観



インタビューの様子

塚本さん（フクシマ環境未来基地代表）に、県内における自然学校や自然体験学習についてお話を伺った。フクシマ環境未来基地は、若者が中心となって森づくりや復興支援等の取り組みをしている団体である。インタビューでは、それらのフクシマ環境未来基地の取り組みについてお聞きした。フクシマ環境未来基地が事務局を務める「苗木 for プロジェクト」は、津波に流された海岸林を再生する取り組みである。寄付金をもとに購入し、栃木県やいわき市内の学校等で育てたマツの苗をボランティアの協力を得ながら植樹している。植樹以外にも植樹予定地の整備や清掃を行っている。

16:00～18:00 子どもが自然と遊ぶ楽校ネット



レクチャーの様子



レクチャーの様子

古滝屋会議室にて、進士徹さん（あぶくまエヌエスネット）より、「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」による取り組みや「ふくしまキッズ」の取り組みについてお聞きした。レクチャーのなかで、子どもたちの学びと育ちを支援する「ふくしまキッズ」の取り組みをお聞きすると共に、参加した子どもたちによるOB・OG会や原発事故から10年後のプラン等「ふくしまキッズ」終了後の展開についてお聞きした。また、自然学校「あぶくまエヌエスネット」や「子どもが自然と遊ぶ楽校ネット」のこれまでの歩みについてお聞きした。

6月23日（日）2日目

10:30～12:30 江湖村（郡山市湖南町舟津字江湖山）



見学の様子



見学の様子

渡邊永喜さん（エコ村理事長）に、江湖村（エコ村）における循環型生活の取り組みについてガイドしていただいた。エコ村は、再生可能エネルギーの生産及び利活用によるエネルギーの自給自足や自然体験に関するイベント、無農薬野菜栽培等を行う NPO 法人である。ガイドでは、バイオマス発電機や木質チップ乾燥室、ハウス栽培を見学させていただいた。

14:30～17:00 ラウンドテーブル：「福島県における自然学校の現状と課題」



ラウンドテーブルの様子



ラウンドテーブルの様子

和田さん（ホールアース自然学校福島校）とともに「福島県における自然学校の現状と課題」を考えるラウンドテーブルを開催した。場所はホールアース自然学校福島校である。ラウンドテーブルでは、本学会が行ってきた「授業案 原発事故のはなし」作成過程や原子力教育を考える会の取り組み、ホールアース自然学校福島校設立の経緯を共有し、意見交換をした。そのなかでは、放射線に関することを福島で取り上げること・議論することの難しさ、福島らしい自然学校や自然体験学習のあり方、自然体験活動のなかでの放射線教育の取り扱い、放射能汚染による喪失感、自然学校に子どもを預ける保護者への学び等について意見交換をした。

6月24日（月）3日目

10:00～12:00 福島県野生生物共生センター（福島県耶麻郡猪苗代町大字壺楊壺

下323）



センター外観



センターの展示

福島県野生生物共生センター内の環境教育施設見学と渡邊さん・壁谷さん(福島県野生生物共生センター)から県内の野生動物管理やセンターでの環境教育に関するレクチャーを受けた。センターは野生動物の調査研究、保護管理、救護及び環境教育を行う施設である。レクチャーではこれら4つのセンターの取り組みの概要のほか、イノシシの筋肉中にある放射性セシウム濃度や、その胃内容物や食性、捕獲場所の土壌との関係に関する研究結果について報告して頂いた。